

【参考】都市構造上の課題

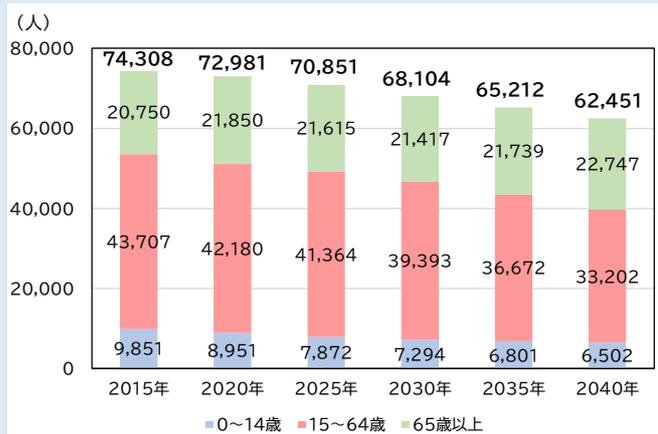
<拠点形成>

課題1 1. 犬山地区及び橋爪・五郎丸地区における都市機能の集積

今後の人口減少を見据え、商業や生活サービスなどの都市機能を市民が享受できるよう、アクセス利便性が高い犬山地区や橋爪・五郎丸地区の都市拠点において、都市機能の集積を図ることが必要です。

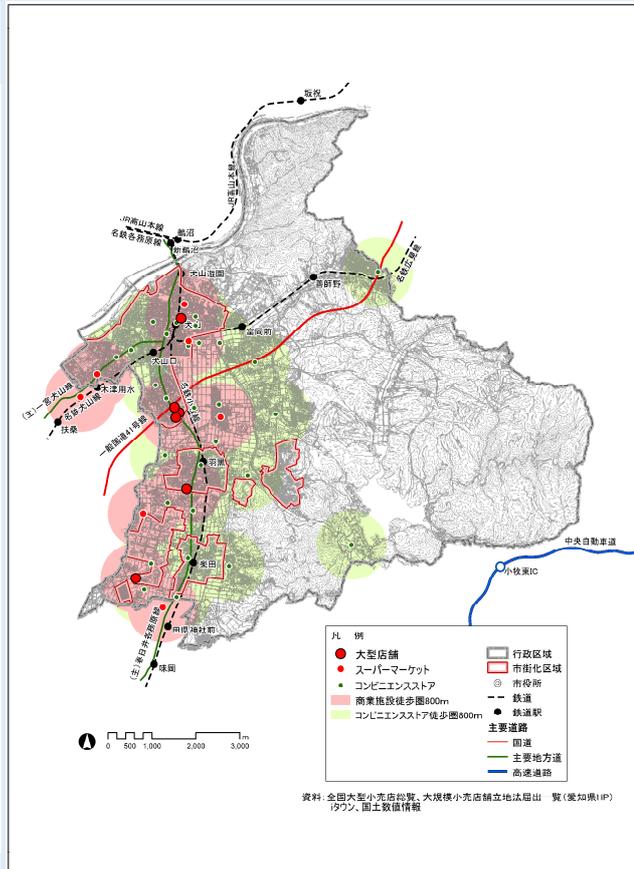
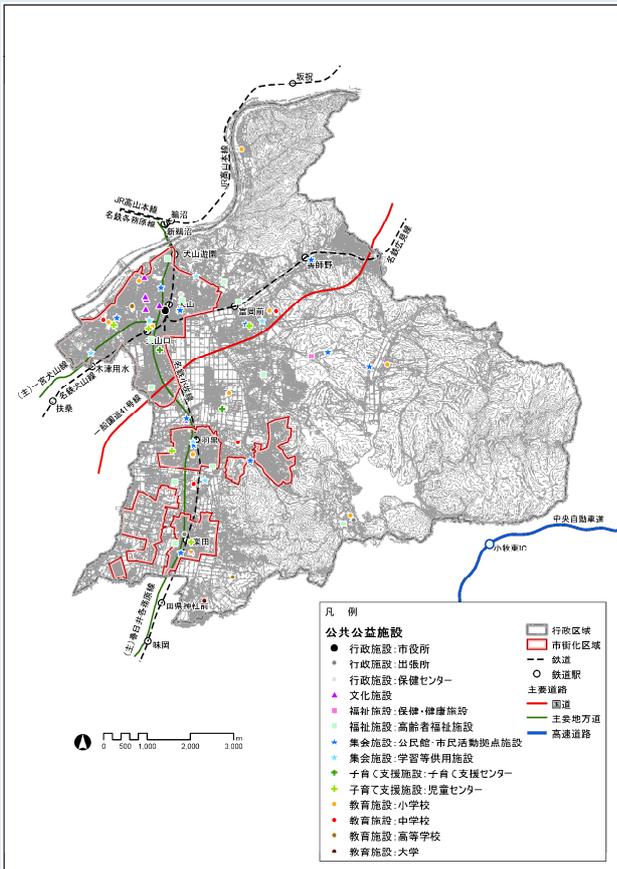
- 人口減少が続いており、2040年には62,451人と2015年の84%にまで減少すると推計されています。
- 犬山地区には、市役所をはじめとする行政施設や文教施設、福祉施設などの公共公益施設が多く立地しています。橋爪・五郎丸地区には、総合病院や商業施設が立地し、近隣にはスポーツ・文教施設といった公共公益施設が立地するなど、本市の都市拠点を形成しています。

図表 将来人口の推移 (年齢3区分別)



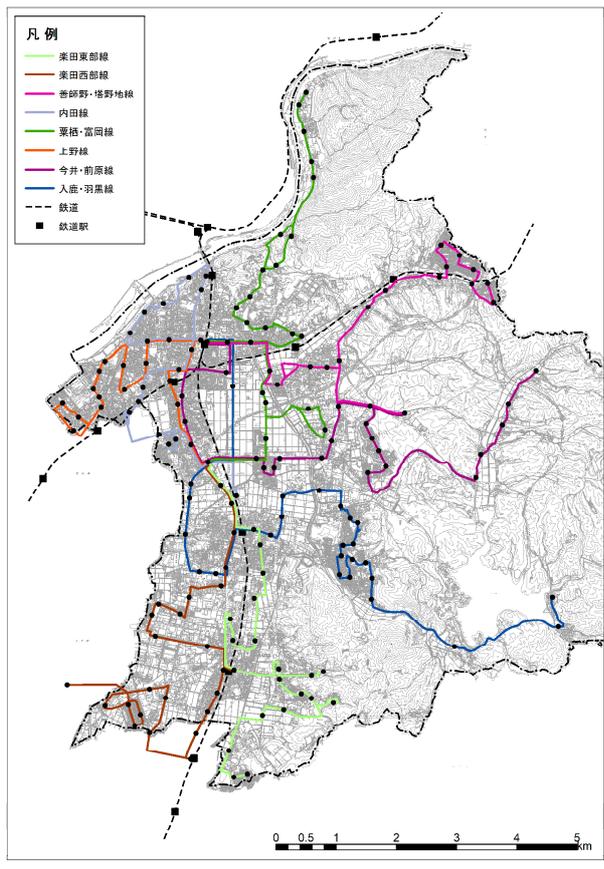
図表 公共公益施設の分布状況

図表 商業施設の分布状況



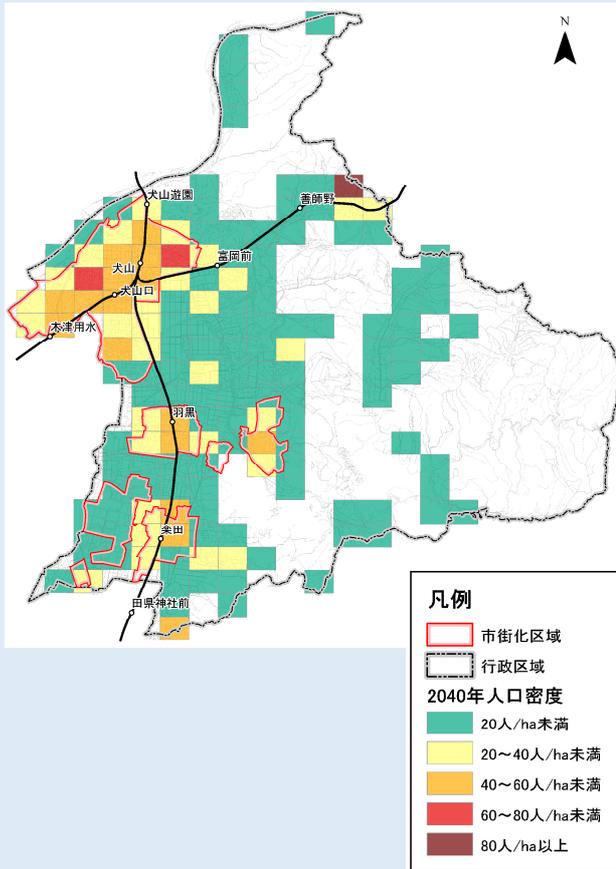
■犬山駅は名鉄3路線が乗り入れ、多くのバスが発着する交通結節点です。また、総合犬山中央病院もコミュニティバスの起点となるなど、犬山地区や橋爪・五郎丸地区は、公共交通によるアクセス利便性が高い地域です。

図表 コミュニティバス路線図



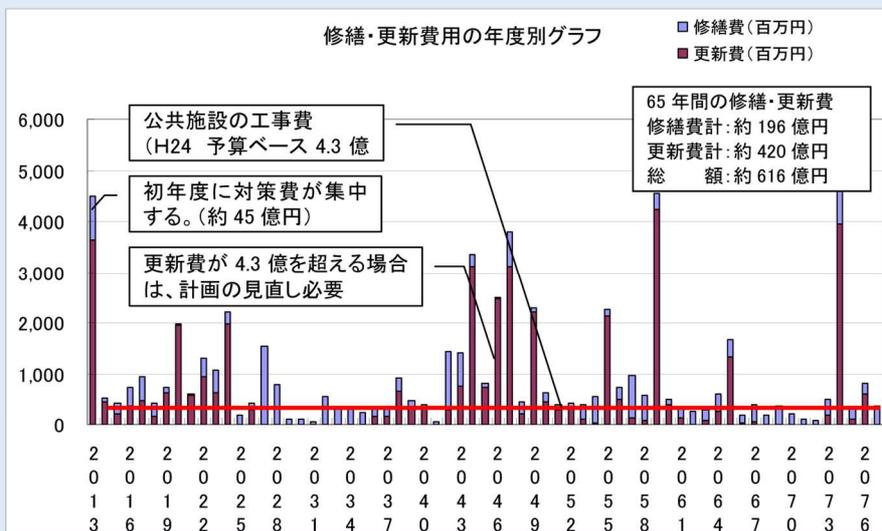
■犬山地区や橋爪・五郎丸地区は、2040年においても、都市機能の維持に必要な一定の人口密度（40人/ha）が確保される見込です。

図表 2040年人口密度分布



■現状の予算規模が将来的に続くことを想定した場合、公共施設の維持・更新に必要な費用が平均で年間約5.2億円不足すると予想されています。そのため、公共施設の維持・更新の観点からも都市拠点等への都市機能の集約化が求められます。

図表 公共施設更新費用の予測



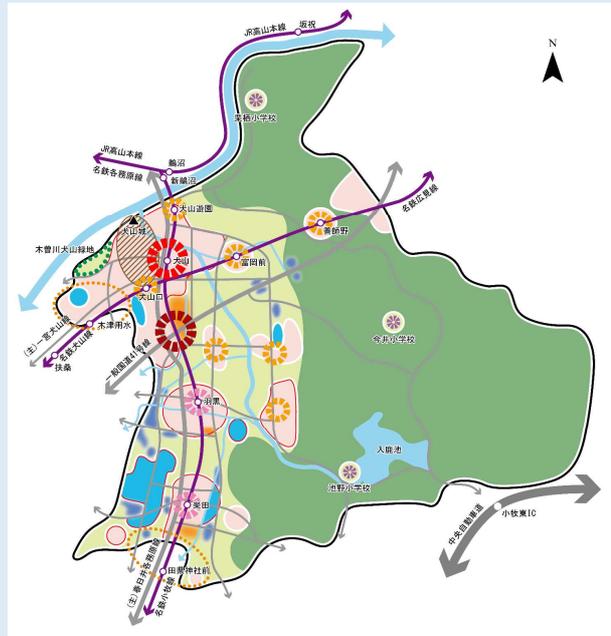
<拠点形成>

課題2 各拠点の位置づけに応じた都市機能配置

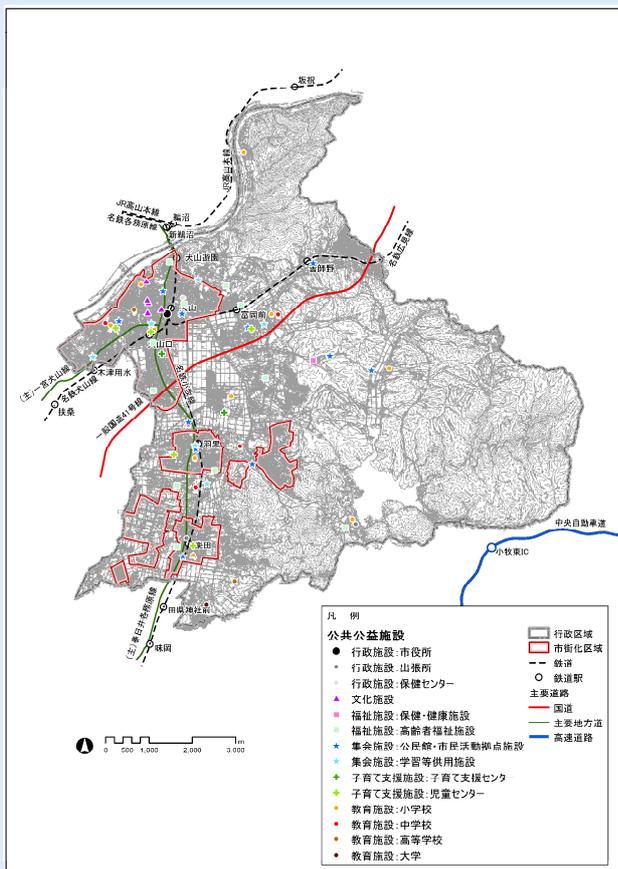
都市拠点や地区拠点など各拠点としての位置づけや、各鉄道駅の利用圏人口や端末交通手段の違いなどを踏まえながら、それらに応じた都市機能の維持・確保を図ることが必要です。

- 都市拠点や地区拠点等の各拠点における位置づけに応じた都市機能の維持・確保を目指しています。
- 公共公益施設については、犬山駅周辺に多く立地しており、各拠点周辺における都市機能の適切な配置が必要です。
- 商業施設についても、大規模な商業施設の立地には偏りがあり、日常生活に必要な商業施設の適切な配置・誘導が必要です。

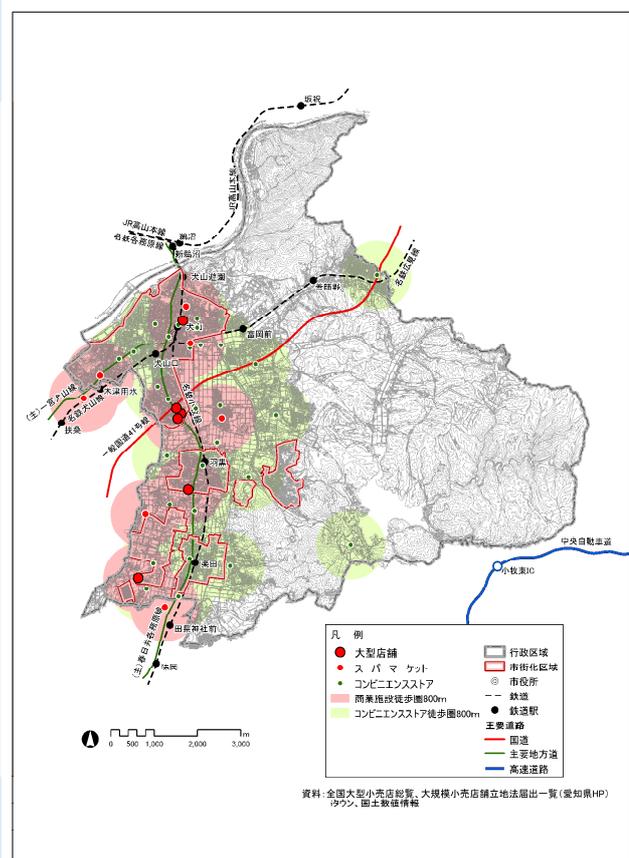
図表 将来都市構造図



図表 公共公益施設の分布状況



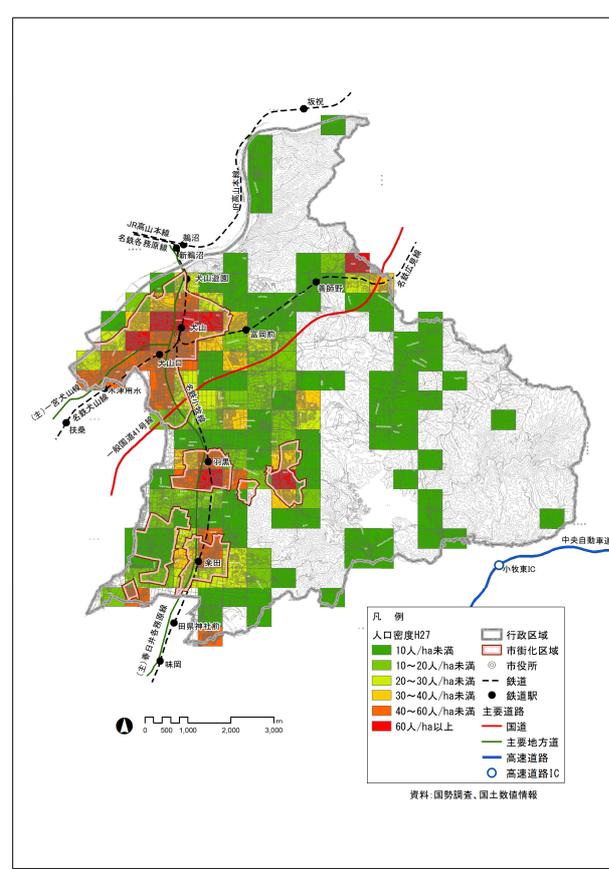
図表 商業施設の分布状況



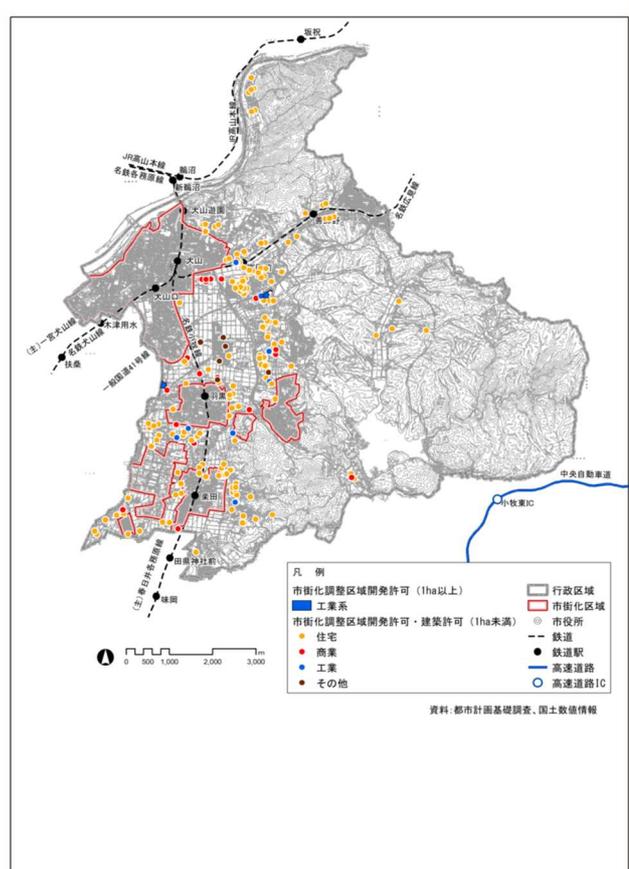
■犬山駅や羽黒駅、楽田駅など、各鉄道駅の周辺に人口が分布し、人口規模に応じた乗降者数があります。そのため、各鉄道駅の利用圏人口に応じた都市機能について、端末交通手段の違いにも配慮しながら配置する必要があります。

■各駅周辺に設定された市街化区域の外縁部や集落地において、住宅等の開発が進んでおり、鉄道駅周辺などの拠点周辺へ誘導を図ることが必要です。

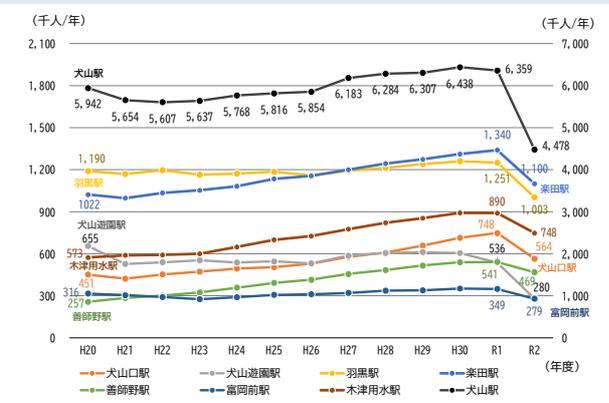
図表 2015年人口密度分布



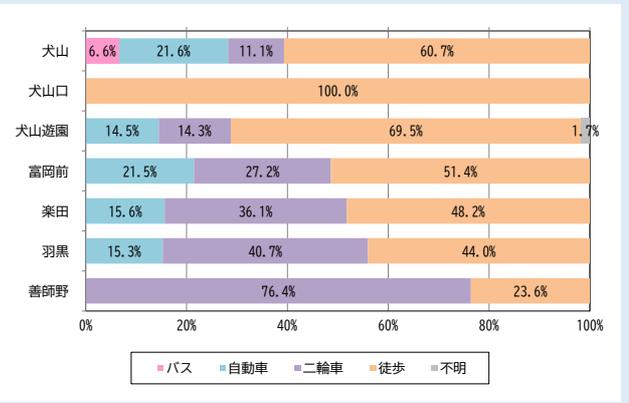
図表 市街化調整区域の開発動向



図表 名古屋鉄道各駅乗降者数の推移



図表 駅端末交通手段の内訳



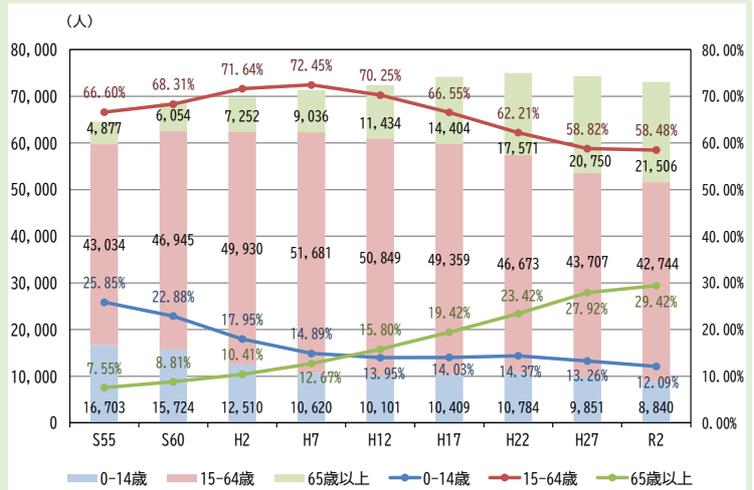
<軸形成（ネットワーク）>

課題3 高齢化が進行する地域と都市拠点等をつなげる公共交通網の形成

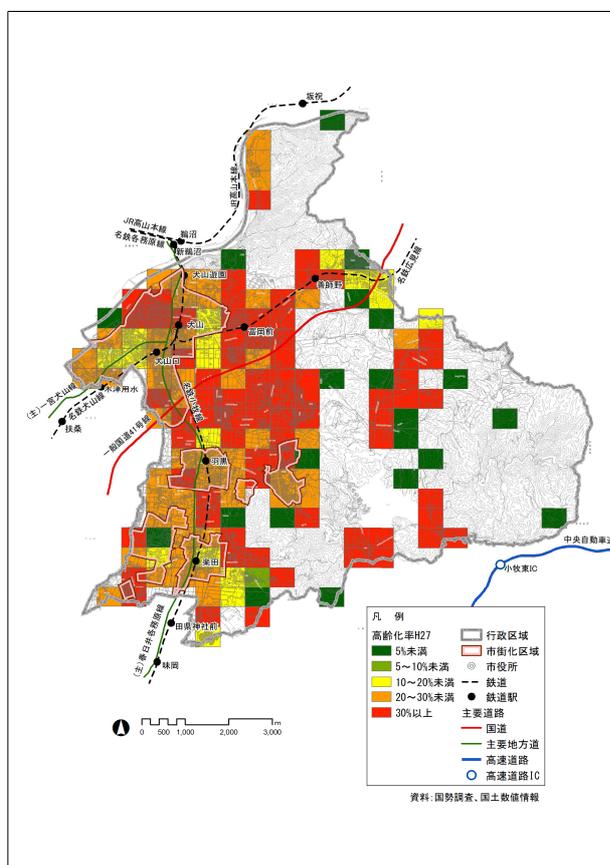
中心市街地や郊外の住宅団地、市街化調整区域の集落地等で高齢化率が高く、高齢者の増加も進んでいることから、こうした地域における移動手段の確保が必要であり、都市拠点等にアクセスできる公共交通網の形成が必要です。

- 少子高齢化が進行しており、令和2年時点の高齢化率は29.2%となっています。
- 中心市街地や市街化調整区域の集落地等で高齢化率が高く、中心市街地や郊外の住宅団地において、高齢者が増加しています。

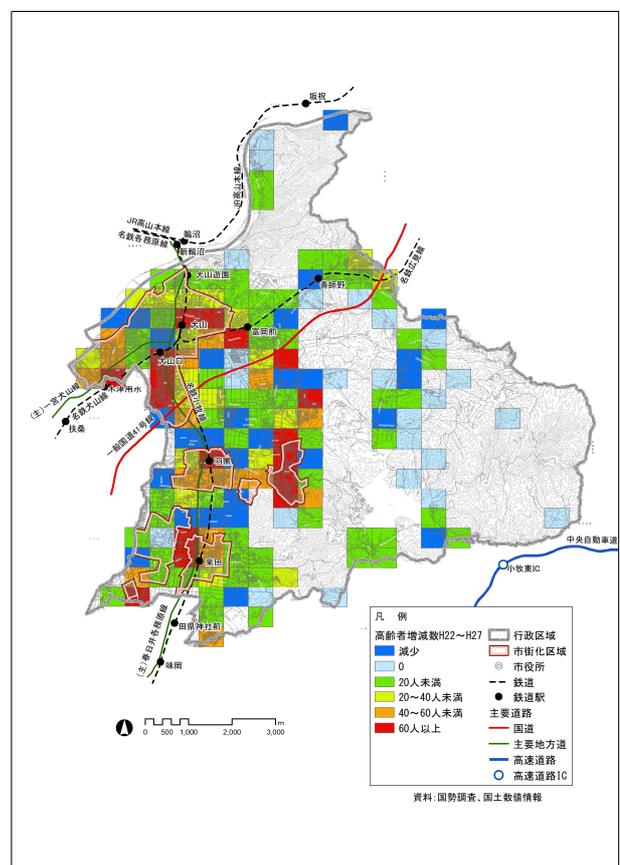
図表 年齢3区分別人口・割合の推移



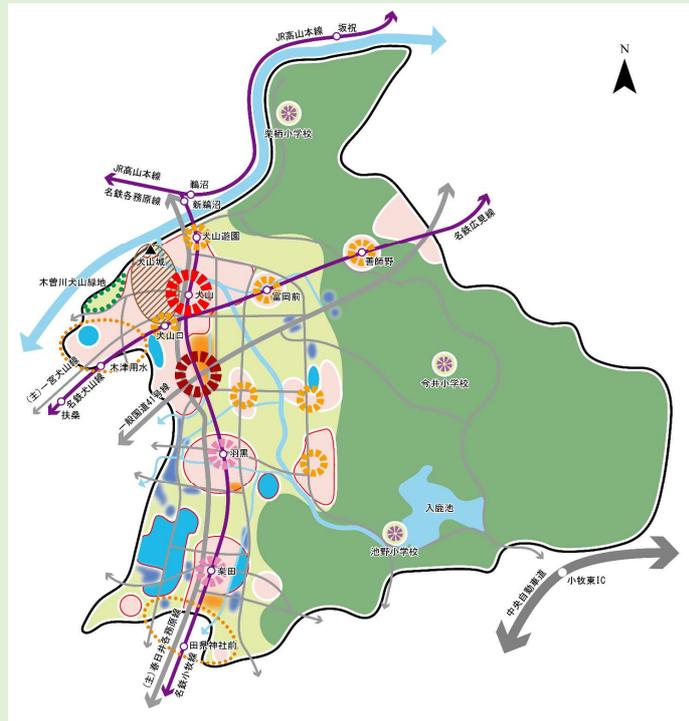
図表 2015年高齢化率



図表 高齢者増減数（2010～2015）



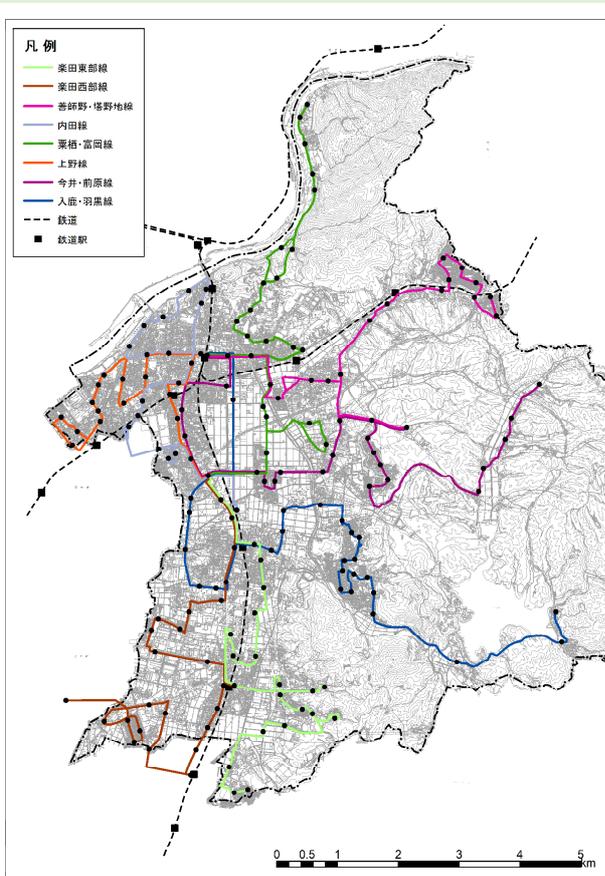
図表 将来都市構造図



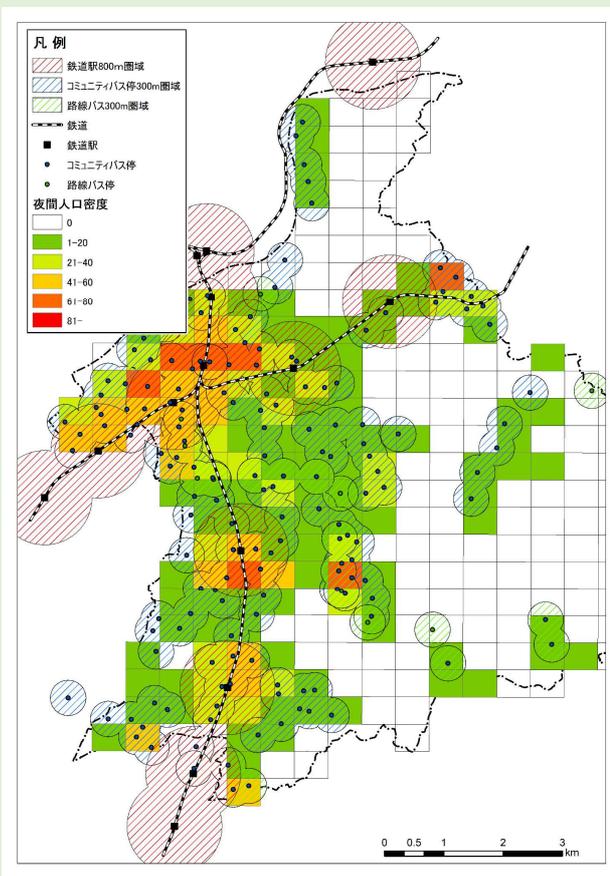
■都市拠点や地区拠点等の各種拠点を配置し、各拠点の位置付けに応じた都市機能の集積・確保を目指しています。

■名鉄犬山線、名鉄小牧線、名鉄広見線が通り7駅が設置されています。また、犬山駅や総合犬山中央病院等を起点にコミュニティバスが市内各地に運行しています。鉄道やバスの利用圏は、人口の91.4%をカバーしており、現在の公共交通ネットワークを維持するとともに、都市機能の集積を目指す各拠点へのアクセス性の強化を図る必要があります。

図表 コミュニティバス路線図



図表 公共交通人口カバー率



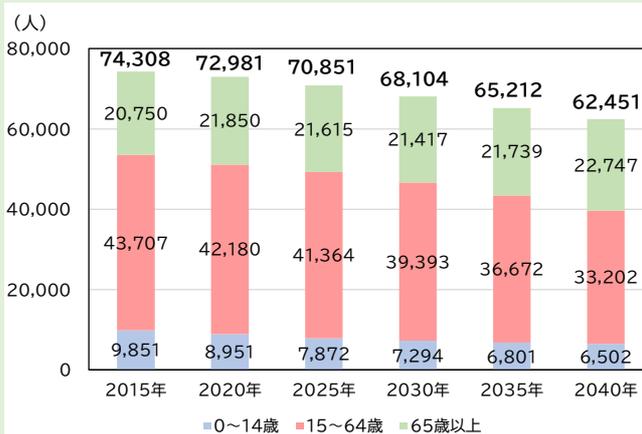
<軸形成（ネットワーク）>

課題4 効率的な公共交通の運行

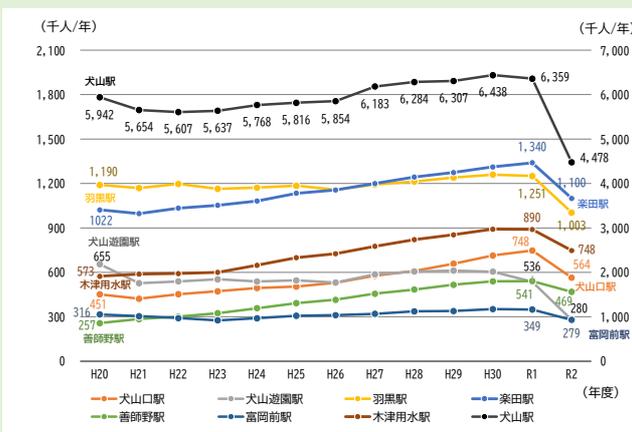
高齢化が進行する中、公共交通の重要性は高まっていくものと考えられます。一方、人口減少が進むと、公共交通利用者数の減少や財政負担の悪化により公共交通の維持が困難になることが懸念されることから、効率的な公共交通の運行が必要です。

- 65歳以上人口は増加が続くと推計されていることから、公共交通の重要性は高まっていくものと考えられます。
- 鉄道やコミュニティバスの利用者数は、増加傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症により利用者は大きく落ち込んでおり、利用者数の急速な回復は見込めない状況にあります。また、人口減少のより一層の進行により、公共交通の利用者数が減少し、公共交通の維持が困難になることが予想されることから、公共交通の利用促進や効率的な運行を図る必要があります。

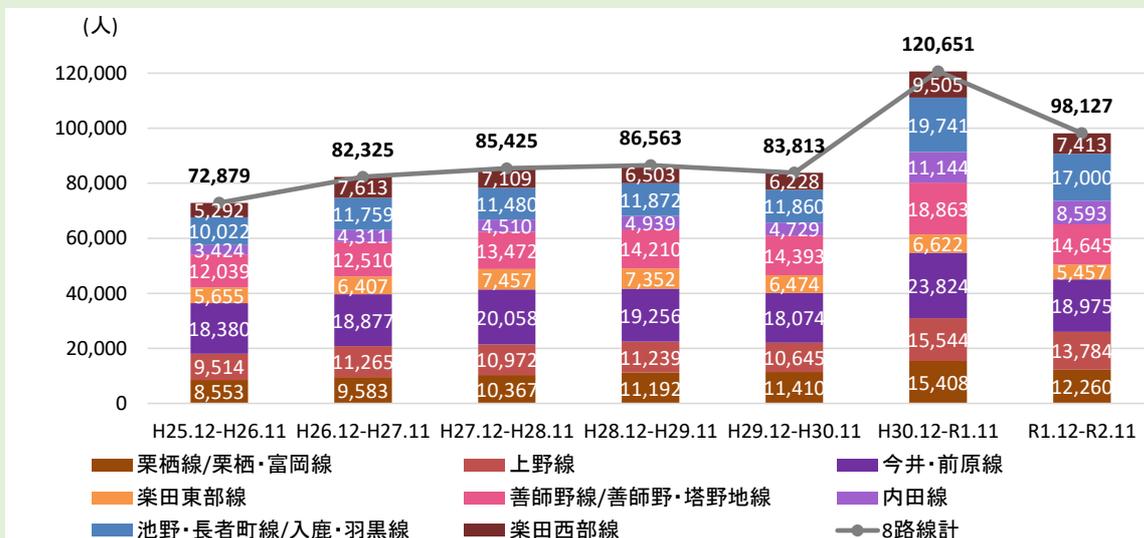
図表 将来人口の推移（年齢3区分別）



図表 名古屋鉄道各駅乗降者数の推移



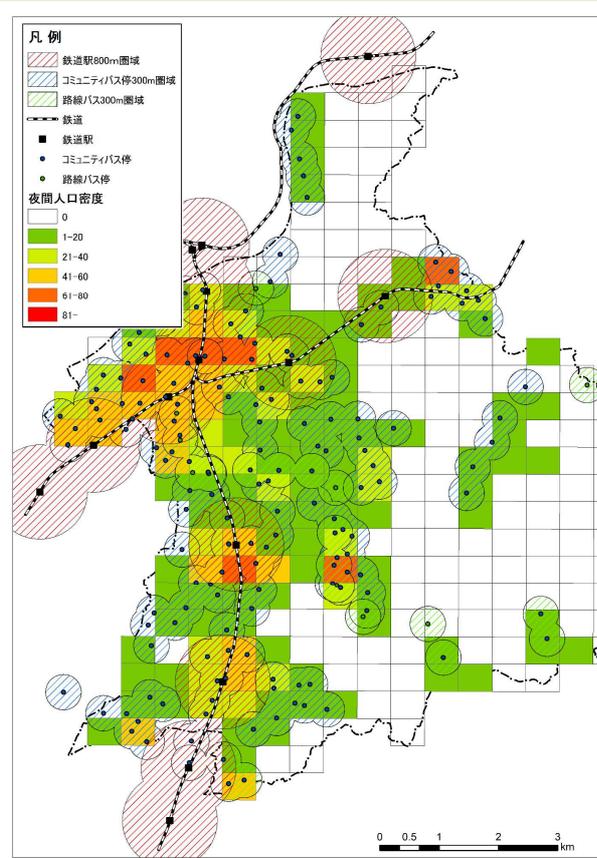
図表 コミュニティバス利用人員の推移



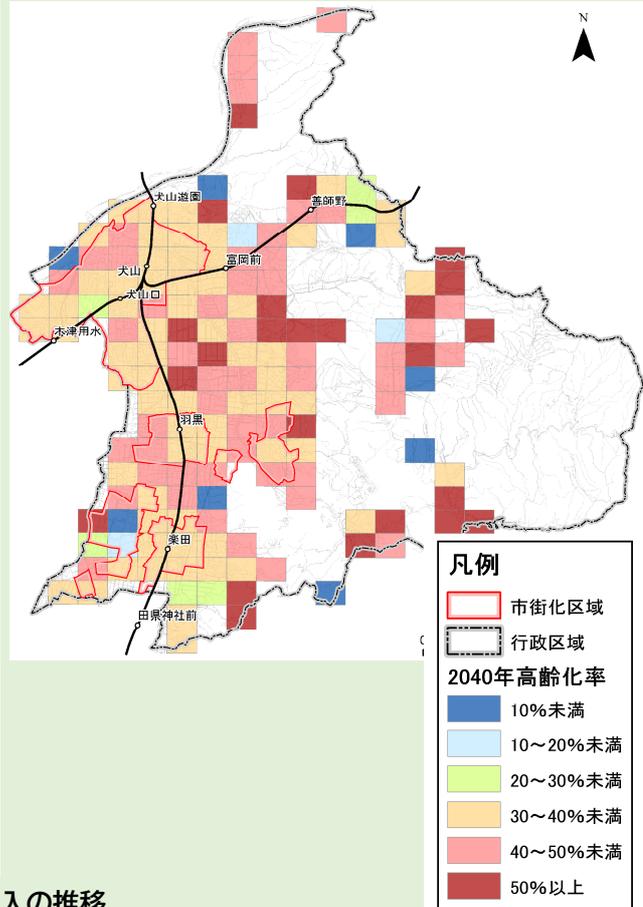
■現在の公共交通人口カバー率は 91.4%と非常に高い状況にありますが、将来、市街化調整区域において高齢化率が高くなると推計されており、郊外部から拠点等へのアクセス利便性を確保することが重要となります。

■本市の歳入は増加傾向にありますが、今後は人口減少や高齢化の進展により減少することが懸念され、利用者数が減少するなかコミュニティバスをはじめとした公共交通の運行を維持することが難しくなる可能性があります。そのため、高齢者等の移動手段を確保しつつ運行経費を圧縮できる効率的な公共交通体系を形成する必要があります。

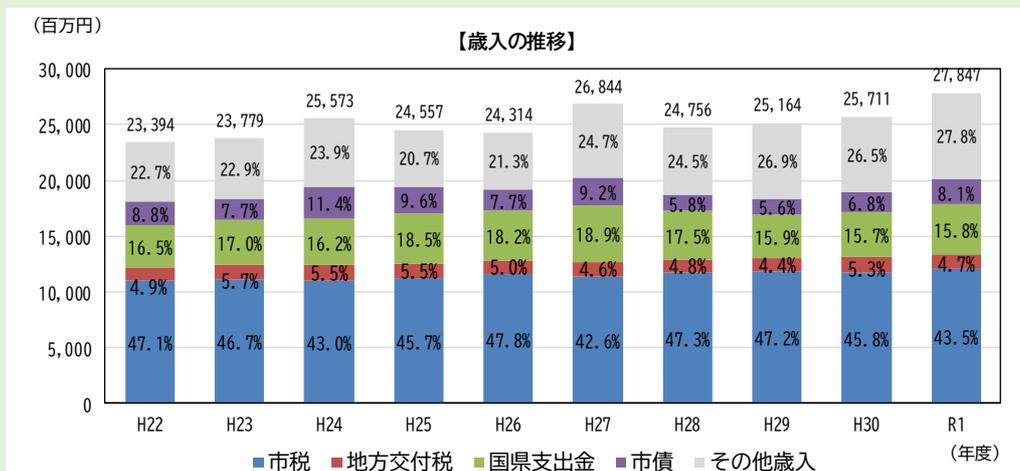
図表 公共交通人口カバー率



図表 2040年高齢化率



図表 歳入の推移



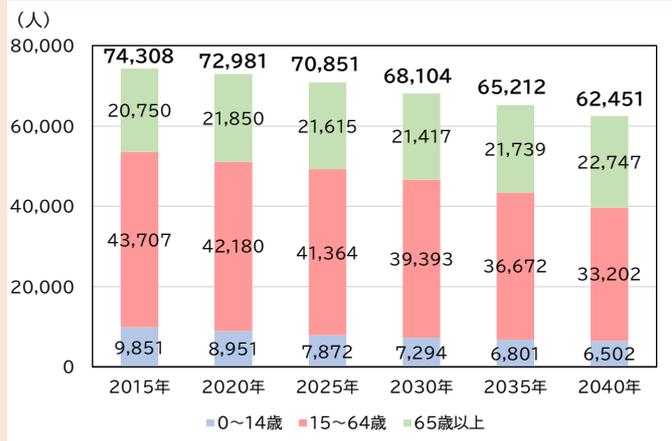
<市街地形成>

課題 5 日常生活に必要な都市機能分布の維持・充実

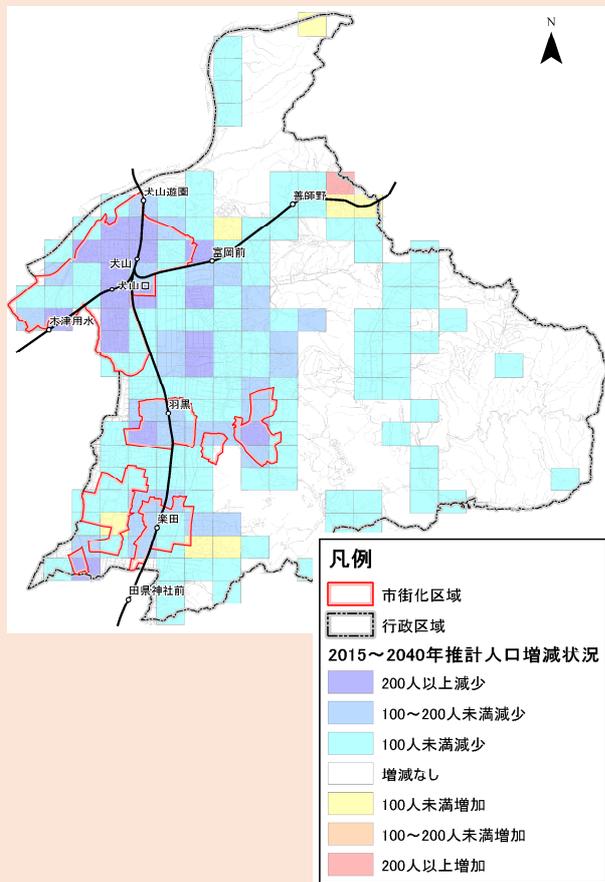
人口減少が進むと一定の人口密度に支えられてきた商業や医療、福祉といった都市機能の撤退・縮小等が懸念されます。これら、日常生活に必要な都市機能分布の維持・充実には、若い世代を中心とした新たな定住人口の受け皿を確保することが必要です。

- 2015年から2040年にかけて、市街化区域をはじめ、市街化調整区域の集落地、郊外の住宅団地など、ほとんどの地域で人口が減少すると推計されています。特に、犬山駅周辺の既成市街地における減少が顕著です。
- その結果、2040年には市街化区域内でも人口密度が40人/haを下回る地域が発生するなど、市街地の低密度化が進行することで、都市機能の撤退、縮小等が懸念されます。

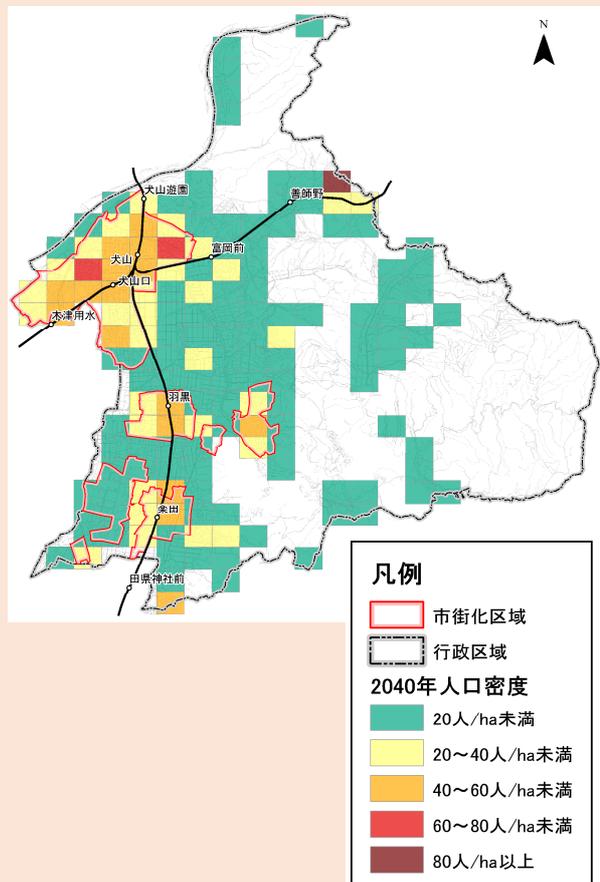
図表 将来人口の推移（年齢3区分別）



図表 人口増減（2015～2040）



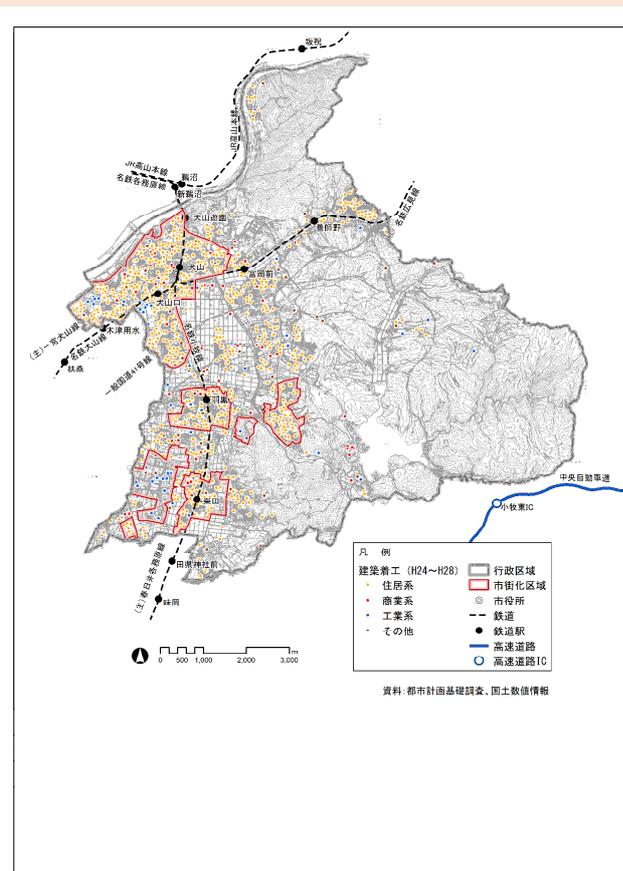
図表 2040年人口密度



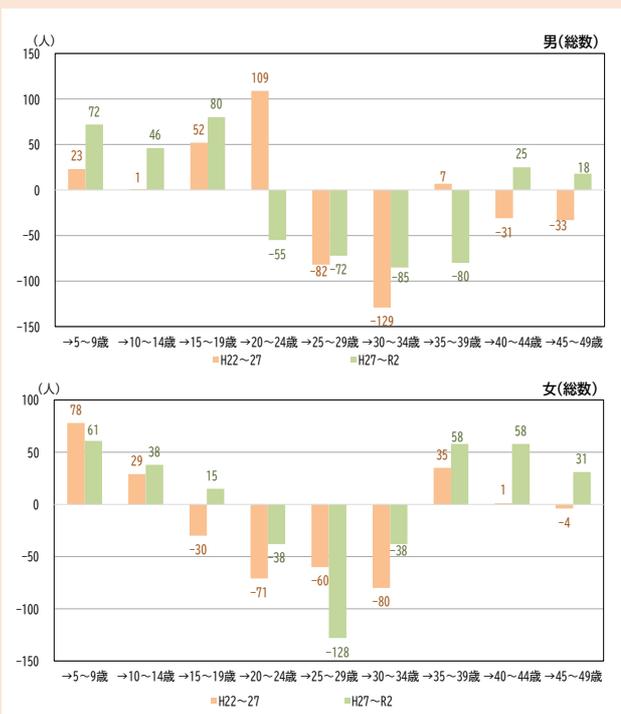
■本市では、30代から40代前半の年齢層が減少から増加に転じ、かつ同時期に年少人口の転入も増加していることから、子育て世代の転入が進んでおり、これらの世帯を受け入れる住宅地を確保する必要があります。

■住宅の建設は、市街化調整区域にも広範囲に分布しており、今後は都市機能が集積する拠点周辺への居住を促進する必要があります。

図表 新築着工建築物の分布



図表 5歳階級別の人口動態



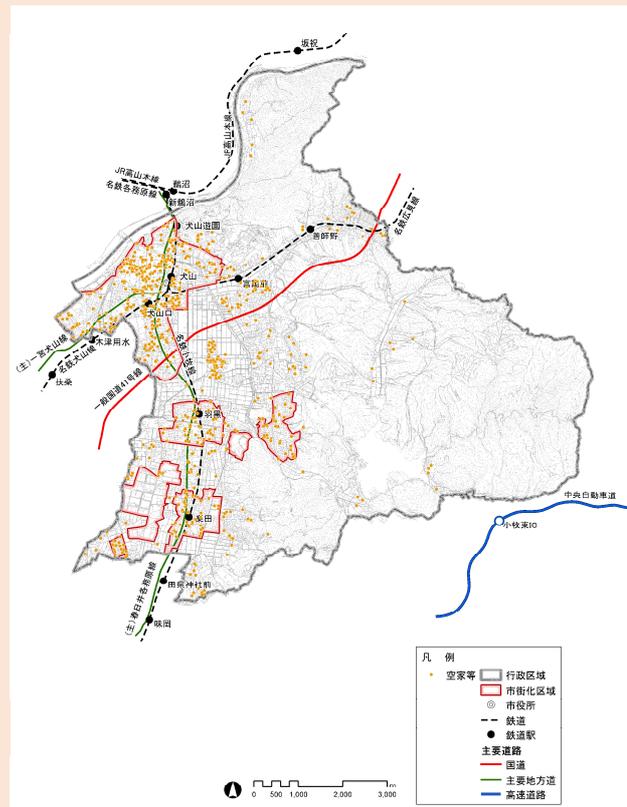
<市街地形成>

課題6 既成市街地における既存ストックの利活用

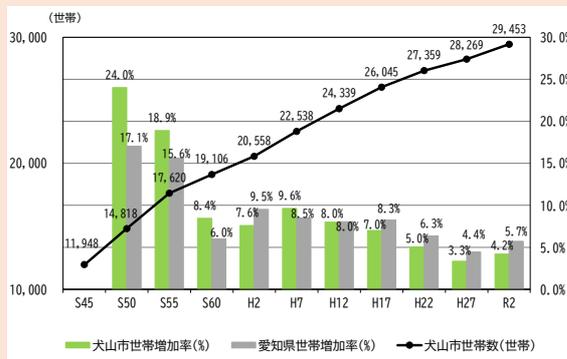
空き家・空き地が増加することで、市街地の低密度化が進むことが懸念されます。このため、空き家・空き地をはじめとした既存ストックの利活用による既成市街地の低密度化の抑制が必要です。

- 世帯数は増加傾向にあります。今後は人口減少が急速に進むことで、世帯数も減少に転じることが想定されます。
- 空き家は市内各地に分布しており、その数も増加傾向にあります。特に犬山地区の旧市街地や比較的古い時期に整備された郊外の住宅団地に多くみられます。
- 今後も人口や世帯数の減少により、空き家が増加することが見込まれます。市街地の低密度化にともない都市機能の維持が困難になるほか、居住環境の悪化が進むことが懸念されます。

図表 空き家等の分布



図表 世帯数の推移

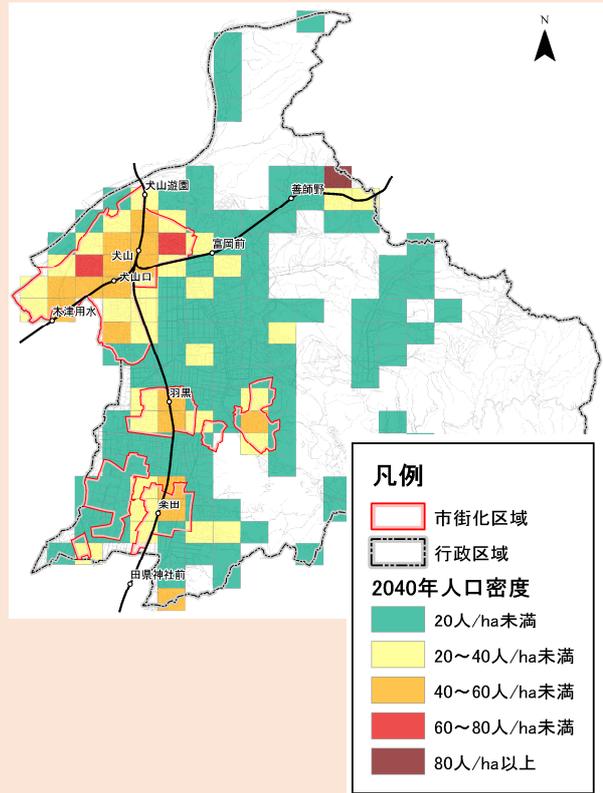


図表 空き家等の状況

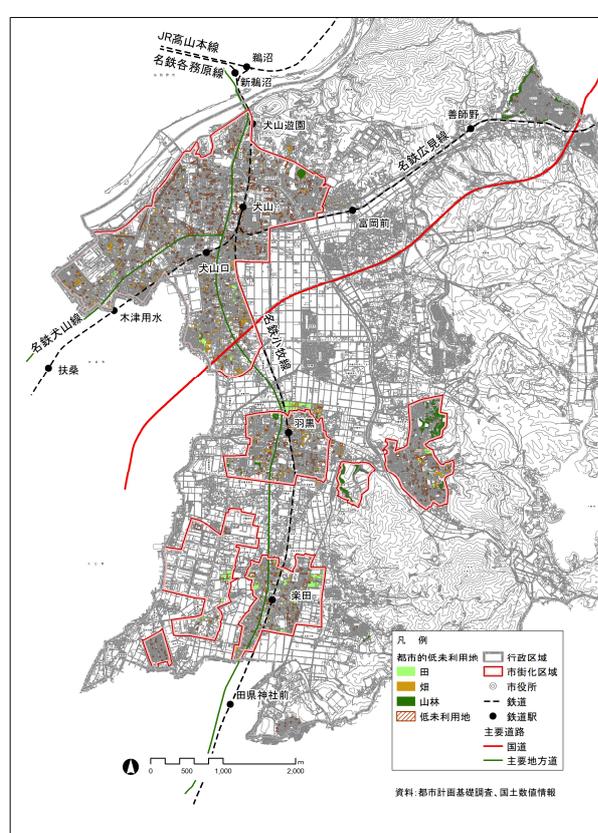
		総住宅数 (戸) : A	空き家数 (戸) : B	二次的住宅 (戸)	賃貸用の住宅 (戸)	売却用の住宅 (戸)	その他の住宅 (戸) : C	空き家率 (B/A)	その他 空き家率 (C/A)
全国	H30	62,407,400	8,488,600	381,000	4,327,200	293,200	3,487,200	13.6%	5.6%
			(100.0%)	(4.5%)	(51.0%)	(3.5%)	(41.1%)		
愛知県	H30	3,481,800	393,800	7,200	230,900	13,100	142,600	11.3%	4.1%
			(100.0%)	(1.8%)	(58.6%)	(3.3%)	(36.2%)		
犬山市	H30	32,230	3,830	120	1,690	70	1,950	11.9%	6.1%
			(100.0%)	(3.1%)	(44.1%)	(1.8%)	(50.9%)		
	H25	31,010	3,730	170	2,020	50	1,480	12.0%	4.8%
			(100.0%)	(4.6%)	(54.2%)	(1.3%)	(39.7%)		
	H20	29,780	2,970	140	1,280	190	1,360	10.0%	4.6%
		(100.0%)	(4.7%)	(43.1%)	(6.4%)	(45.8%)			
	H15	27,000	3,020	70	1,580	60	1,320	11.2%	4.9%
			(100.0%)	(2.3%)	(52.3%)	(2.0%)	(43.7%)		
	H10	24,030	1,780					7.4%	

図表 2040年人口密度

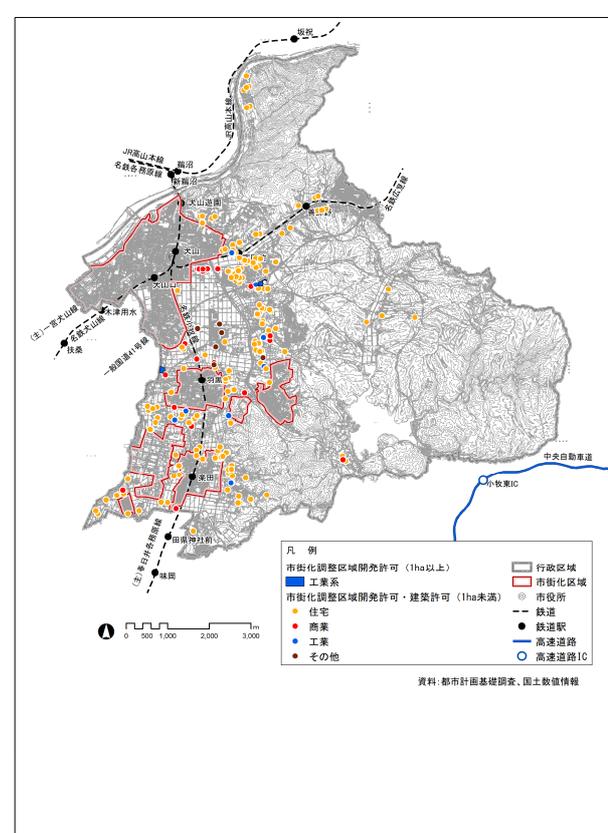
- 2040年には、市街化区域でも人口密度が40人/haを下回る地域が出るなど、市街地の低密度が進行すると予想されます。
- 市街化調整区域における開発が多くみられる一方で、市街化区域内には都市的低未利用地も多く残っており、良好な居住環境の形成に必要な緑地等は適切に保全しつつも、これらの既存ストックを有効に活用することが求められます。



図表 都市的低未利用地の分布



図表 市街化調整区域の開発許可



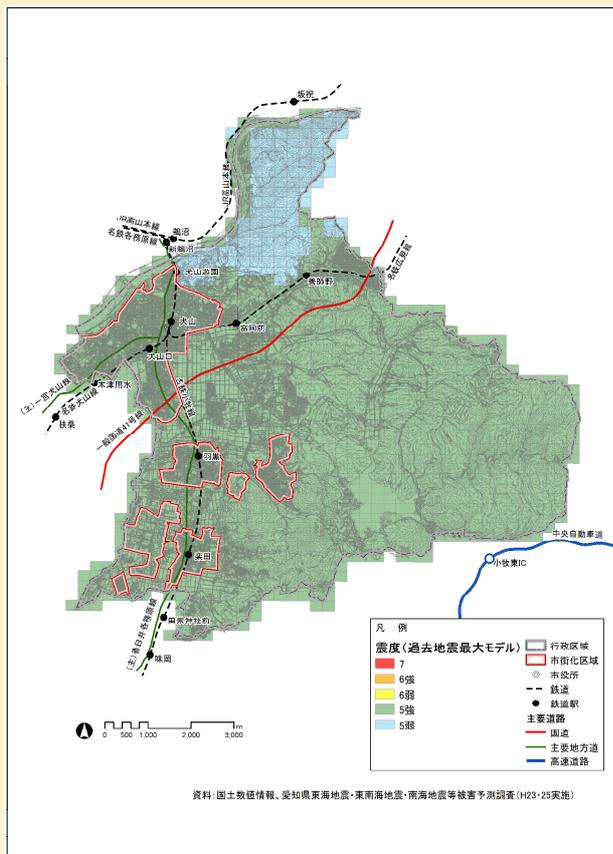
<防災>

課題 7 安心・安全に住み続けられる居住環境の確保

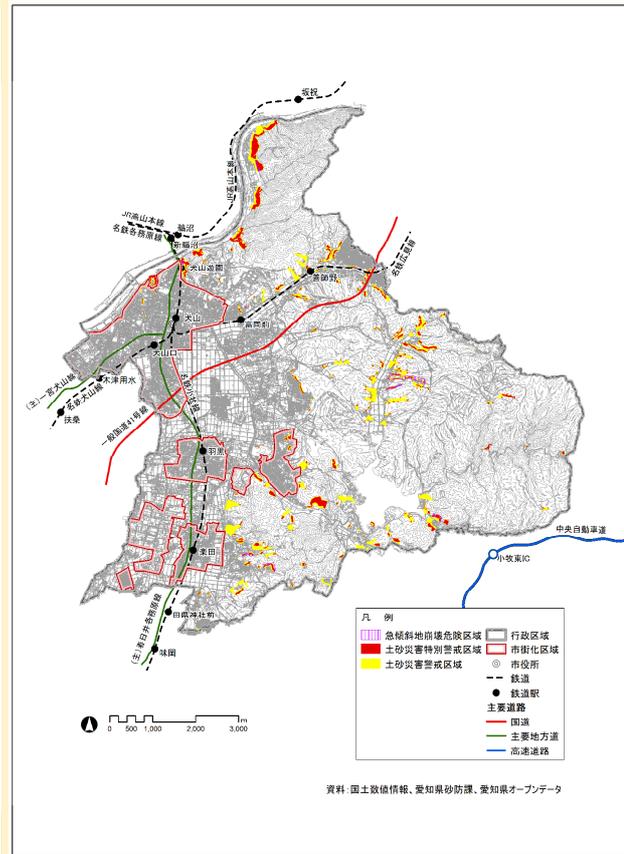
各種災害リスクの想定では、地震については最大震度5強となっており、液状化の危険性も低いとされています。また、市街地領域の一部や東部の中山間地では、土砂災害の危険性が高い地域が存在しています。さらに、木曾川や郷瀬川、新郷瀬川沿いを中心に、洪水による浸水被害が予測されています。こうした地域においては、各種の防災・減災対策を推進し、居住環境の安全性を向上する必要があります。

- 南海トラフ巨大地震の被害想定によると、市北部の山地の一部地域で最大震度5弱と想定されるほか、大部分の地域は最大震度5強と想定されています。
- 液状化については、市全域で概ね危険度は低くなっています。
- 東部の中山間部には、広範囲に土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域が指定されています。市街地領域の一部でも土砂災害の危険性が高い区域がみられます。

図表 最大震度（南海トラフ地震）



図表 土砂災害危険区域



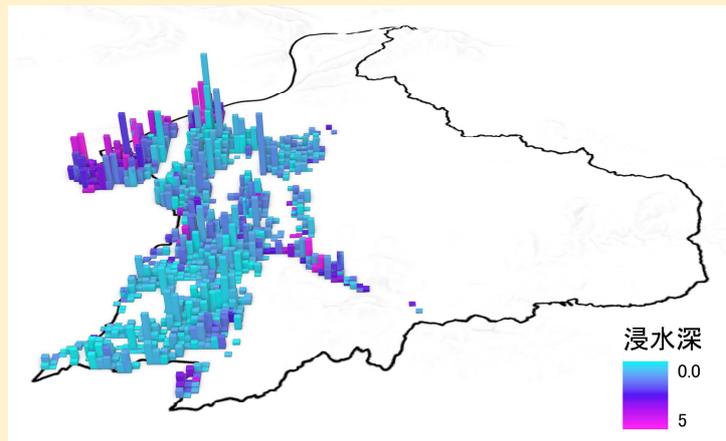
■木曾川、新川水系、郷瀬川・新郷瀬川の計画規模（L1）の浸水想定区域をみると、市街化調整区域を中心に広がっていますが、羽黒駅周辺の市街化区域で浸水が予想され、浸水深はおおむね0.5m未満となっています。

■一方、想定最大規模（L2）の浸水想定区域をみると、計画規模（L1）と同様に市街化調整区域を中心に広がっていますが、犬山遊園駅西側、木津用水駅北側や羽黒駅周辺等の市街化区域の一部で浸水が予想され、浸水深3.0m以上の深い地区もあります。

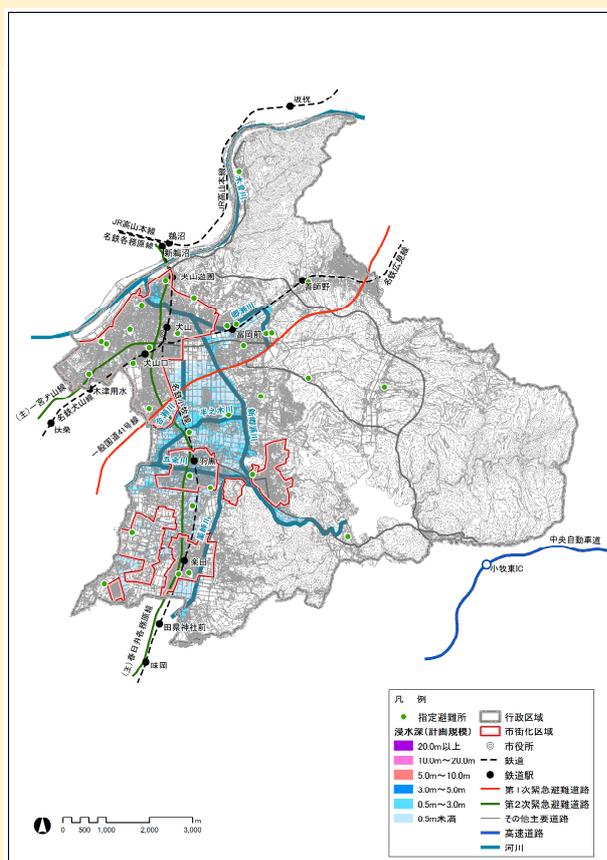
■浸水想定区域（L2）における人口密度分布をみると、木津用水駅北側の市街地で人口密度が高く、浸水深も深い傾向があり、水平避難が必要な人口が多い状況です。

■洪水や土砂災害のリスクが高い地域が存在することから、新たな住宅供給にあたっては、防災性へ配慮が求められます。また、既成市街地においても災害に強い市街地の形成に向けた各種の防災・減災対策を推進することが求められます。

図表 浸水想定区域（L2）における人口密度分布



図表 洪水浸水深（計画規模）



図表 洪水浸水深（想定最大規模）

